

Career Interview

統計局統計調査部消費統計課
物価統計室調査官

丸山 歩

MARUYAMA AYUMI

平成 5年 4月 総務庁採用

統計センター管理部情報処理課プログラム第4係

平成 10年 4月 統計センター管理部情報処理課プログラム第2係

平成 13年 4月 統計局参事官付統計専門職

平成 15年 4月 統計局参事官付名簿情報企画係長

平成 17年 4月 統計局統計調査部調査企画課統計情報官

平成 19年 4月 統計局統計調査部国勢統計課労働力人口統計室
審査発表第二係長

平成 20年 4月 経済産業省経済産業政策局調査統計部

参事官付解析二係長

平成 22年 4月 統計局統計調査部消費統計課物価統計室

物価指数第二係長

平成 22年 10月 統計局統計調査部消費統計課物価統計室

物価指数第一係長

平成 24年 1月 統計局統計調査部消費統計課物価統計室課長補佐

平成 27年 10月 統計局統計調査部経済統計課課長補佐

平成 29年 1月 統計局統計調査部消費統計課物価統計室課長補佐
(企画担当・価格調査担当)

平成 31年 4月 現 職

同じ目的に向かって



【今、そしてこれから】

バランス感覚を持ちながら

日本銀行の政策目標として用いられる消費者物価指数を作成する部署で、管理業務に従事しています。消費者物価指数は経済実態の変化に合わせて、5年毎に調査品目の見直しなどの改定を行なうこととなっており、現在は、2020年基準改定に向けた取組を進めています。急速に変貌するデジタル経済社会に対応するため、「やるべきこと」、「やりたいこと」、「やれること」の視点をバランス良く持ちながら取り組んでいきたいと思っております。

【係長時代】

立場を変えて

係長職の時代は、集計や調査結果の審査・発表をする業務に携わる機会が多かったのですが、他省庁での勤務や国際協力でタンザニアに赴くなど多様な業務も経験することができました。その中で、経済情勢について自らテーマを設定し、様々な統計データを用いて分析レポートを作成する部署に配属された際は、統計作成側からだけでなく、利用者の視点を改めて持つことができ、それらの経験が自分の財産になっていると思います。

【係員時代】

自分の基礎となる知識・経験を吸収

私は文系学部を卒業しましたが、最初は、プログラミングを行う部署へ配属されました。全く経験のない業務で不安を覚えたのですが、様々な充実した研修制度や上司・先輩方のご指導のおかげで、情報処理のスキルを学ぶことができました。プログラム作成は小さなミスも結果に直結しますので、少しの疑問もおろそかにしない態度が必要です。係員時代にこのような経験ができたことは、その後の業務において役立っていると思います。

Message

統計に関する知識がなくても、統計局には、統計理論やプログラミング技術などの研修を受講する機会が十分用意されており、専門知識を蓄積することでスキルアップが実感できる場所です。また、統計局はどの部署であっても、最終的には「信頼される統計作成」という一つの目的に向かって仕事をしており、これが組織としての強みにつながっていると思います。皆様も同じ目的に向かう統計局の一員に加わってみませんか。